

連結

売上高

1兆1,917 億円
(前年同期比 +15.2%)



営業利益

1,064 億円
(前年同期比 +11.3%)



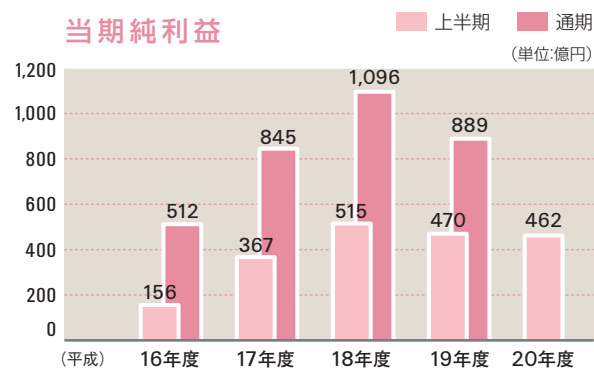
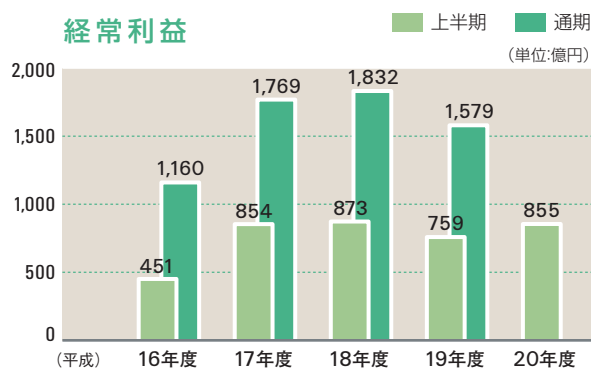
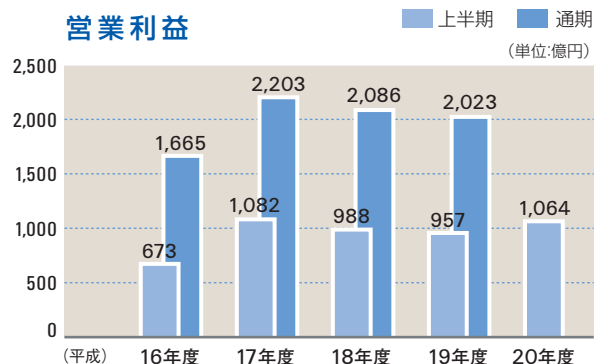
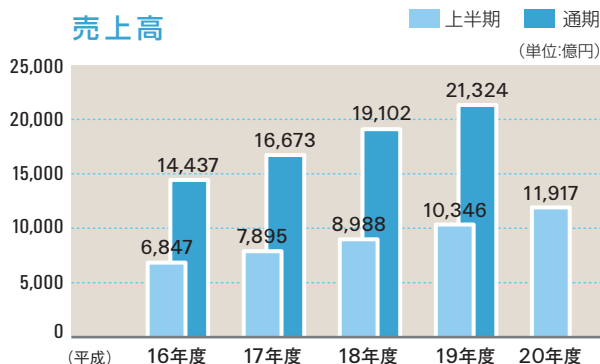
経常利益

855 億円
(前年同期比 +12.7%)



当期純利益

462 億円
(前年同期比 △1.6%)



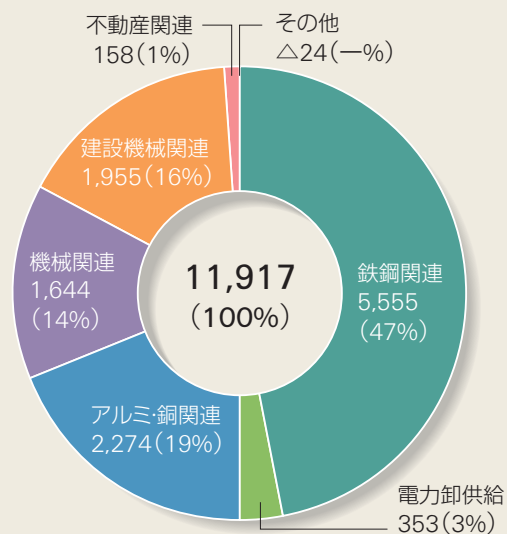
(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

当上半期の概況

当上半期(第2四半期連結累計期間)の我が国経済は、エネルギー・原材料をはじめとする資源価格高や、輸出の鈍化などを背景に、企業収益が悪化するなど、景気は停滞しました。一方、海外においては、金融不安の影響もあり、米国や欧州の景気減速が明確になりましたが、中国や中東、ロシアなどは緩やかに減速しながらも成長を維持しました。

このような経済環境のもと、当上半期の業績は、鉄鋼関連事業で原材料の大幅なコストアップに対応して鋼材販売価格への転嫁を進めたことなどから、売上高は前年同期に比べ1,571億円増収の1兆1,917億円となりました。営業利益は、鉄鋼をはじめ各事業とも大幅なコストアップに見舞われましたが、これに対応し、コストダウン活動を継続するとともに販売価格の改善に取り組んだことから、前年同期に比べ107億円増益の1,064億円となりました。また、経常利益は前年同期に比べ96億円増益の855億円、純利益は特別損失として投資有価証券評価損を計上したことから、前年同期並みの462億円となりました。

事業別売上高(平成20年度上半期) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高281億円と事業間の内部売上高等の消去額△305億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△24億円となっております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼関連事業

5,555 億円
(前年同期比 +25.2%)



上半期需要は堅調に推移し、
販売価格も改善しました。

- 高級鋼を中心とした堅調な需要を取り込むべく高水準の操業を継続。
- 原材料価格は大幅上昇、海上運賃市場も高止まり。
- 原材料などの大幅なコストアップに対応して販売価格への転嫁を推進し、鋼材販売価格は前年同期比上昇。
- 鋳鍛鋼は造船向けの需要が依然旺盛、チタン製品、溶接材料の需要も堅調。

- 営業利益は、前年同期比235億円増益の637億円。
- 今後の需要動向は、ユーザーの生産動向や海外の汎用鋼市況の軟化など予断を許さない状況。

加古川製鉄所





電力卸供給事業

353 億円
(前年同期比 +3.7%)



安定操業と収益の確保に
努めています。

- 電力単価に転嫁される石炭価格の上昇により売上高は増加。
- 法人税法の改正に伴い、耐用年数が短縮され、減価償却費が増加し、営業利益は前年同期比4億円減益の77億円。



神鋼神戸発電所



アルミ・銅関連事業

2,274 億円
(前年同期比 △2.3%)



液晶製造装置向けは復調も、
エアコンや印刷板向けアルミ
圧延品が減少しました。

- 飲料缶材用アルミ圧延品が堅調。
- 昨年少調だった液晶製造装置向けアルミ圧延品、アルミ鋳鍛造品が復調。
- エアコンや印刷板向けアルミ圧延品は減少。
- 銅圧延品は半導体分野の調整局面影響により前年同期並み。
- 売上高は需要の状況と販売価格に転嫁される地金価格下落により減少。
- 営業利益は、法人税法の改正に伴い、耐用年数の変更を行なったため、減価償却費が増加、在庫評価影響減などの影響により前年同期比103億円減益の36億円。



アルミ缶



機械関連事業

1,644 億円
(前年同期比 +23.5%)



事業全体の受注高は30.5%減
の1,406億円、当上半期末受注
残高3,714億円となりました。

- 石油精製・石油化学・エネルギー業界の活発な設備投資を背景に圧縮機やエネルギー関連機器を中心に受注は好調。
- 鉄源の需給逼迫を背景に、還元鉄プラントの引き合いも増加。
- 受注高は国内向けは前年同期比5.2%減の707億円、海外向けは、前年の上半期に大型案件が集中したため、前年同期比45.3%減の699億円。
- 営業利益は資機材価格の上昇により前年同期に比べ6億円増益の132億円。



LNG気化器



建設機械関連事業

1,955 億円

(前年同期比 +11.9%)



油圧ショベルは中国・東南アジア向けが好調、クレーンは世界全域で好調でした。

- 油圧ショベルの需要は、中国・東南アジア向けが引き続き好調に推移。
- 国内、米国、欧州向けの油圧ショベルの需要は減退。
- クレーンの需要は世界全域で好調が継続。
- 営業利益は資機材価格の上昇により前年同期並みの131億円。



油圧ショベル
「アセラ・ジオスベック」SK135SR



不動産関連事業

158 億円

(前年同期比 △11.3%)



賃貸事業は安定的に推移したものの、マンション分譲事業は引渡戸数が減少しました。

- 不動産販売事業におけるマンション販売戸数が減少。
- 賃貸事業は安定的収益継続。
- 営業利益は前年同期比5億円減益の14億円。



「ジークレフ豊中」

電子材料・
その他の事業

281 億円

(前年同期比 +1.4%)



配線膜用ターゲット材の販売量が減少しました。

- 輸送機・エネルギー業界向けを中心に試験分析事業は好調に推移。
- 代替素材との競合により、配線膜用ターゲット材の販売量が減少。
- 営業利益は前年同期比12億円減益の23億円。



ターゲット材